

重要文化財 武雄鍋島家洋学関係資料 保存活用計画【概要版】

令和4年10月 武雄市



（左）天球儀 （右）地球儀

オランダ製の天球儀(1750年製)と地球儀(1745年製)。セットで残っている例は非常に珍しく、武雄には1844年に持ち込まれたとの記録があります。



武雄蘭書

武雄に蘭学(洋学)を導入した領主が集めたものです。語学・理工学・医学・軍事学・伝記・旅行記・雑誌・百科辞典と多岐にわたり、使用の痕跡が多くに見られます。



モルチール砲(左)と裏面の漢文銘(右)

1835年、日本人の手によって初めて造られた西洋式大砲です。当時の西洋砲術の第一人者、高島秋帆が長崎で鑄造して武雄にもたらしたと考えられます。

『重要文化財 武雄鍋島家洋学関係資料 保存活用計画』とは

〔資料の概要〕

重要文化財 武雄鍋島家洋学関係資料(以下、「武雄鍋島家洋学関係資料」)は、武雄領主であった鍋島家に伝わった、江戸時代後期の西洋文物導入期から戊辰戦争に至る期間の洋学関係資料群です。

文書・記録類 1304点、標本類 4点、和書・訳書類 284点、洋書類 133点、絵図・地図類 36点、図面類 159点、写真 7点、器物類 297点の全 2,224点からなる一大資料群であり、平成26年8月21日に国の重要文化財に一括指定されました。

武雄領主の集めた数多くの貴重な資料が散逸することなく、洋学研究に励んだ「武雄」の地に良好な状態で残されています。この中には、情報源である洋書・輸入図面、洋学資料の入手あるいは受容にかかる記録、記録に記された実物という両面の資料が含まれます。わが国における幕末期の西洋学術・科学技術の受容史において、また軍事技術・兵学の発達史において貴重なまとまった資料群に位置付けられ、大きな価値があります。

〔計画の目的〕

本計画は、本市に残る貴重な武雄鍋島家洋学関係資料の適切な保存管理を行い、さらには、市民や観光客が蘭学に親しめるような事業を展開し本市のまちづくりに活用していく取組を市民と協働で進めるものです。これにより『蘭学のまち 武雄』『武雄と言えば 蘭学』のまちづくりを進めることを目的として策定するものです。

〔計画の期間〕 令和5年度から令和9年度まで(5年間)

【背景画像】重要文化財 武雄鍋島家洋学関係資料のうち「皮製陣羽織(金唐皮)」

蘭学のまち 武雄

『武雄と言えば蘭学』のまちづくりを目指して

武雄鍋島家洋学関係資料は、文化財として非常に高い価値を有し、文化観光資源としても期待される資料です。適切な保存、活用を行うことで武雄市の魅力の1つとして広く受け入れられるものとなります。

武雄市の観光の基軸である「いで湯（温泉）」「陶芸（やきもの）」に「蘭学・洋学」を加え、『武雄と言えば蘭学』のイメージが広がる保存・活用を目指します。

【基本方針1】

資料を積極的に公開・活用できるように資料の整理・調査を行うとともに、広く情報を発信し、蘭学・洋学研究の拠点化を目指します。

【基本方針2】

資料の保存環境の整備や修理を適切に行い、先人たちが守り、伝えてきた地域の大切な資料を次世代に伝えます。

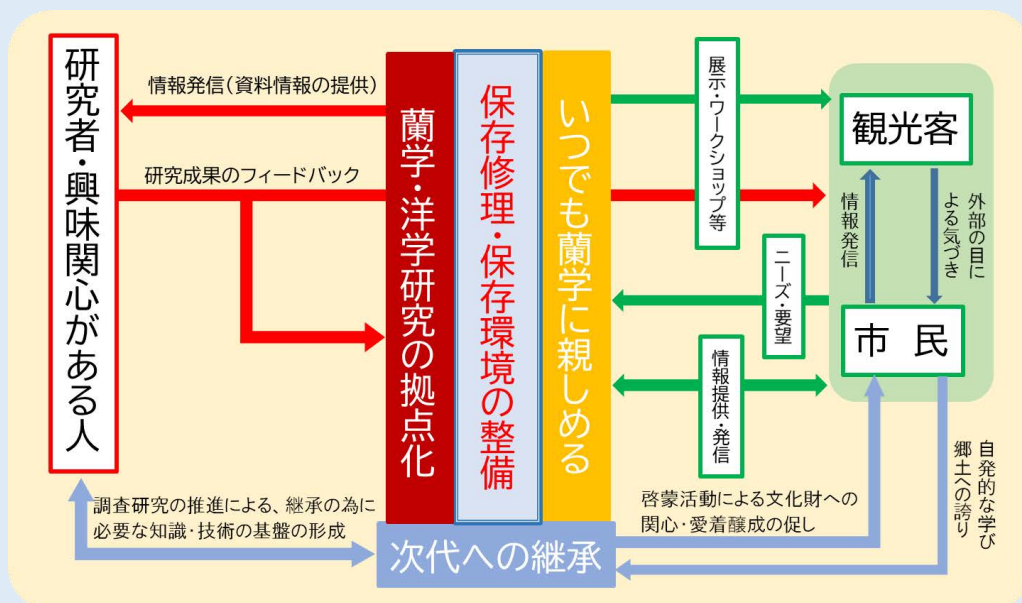
【基本方針3】

資料の展示や公開のほか、教育や観光で積極的に活用を図ります。資料の価値や魅力が受け入れられる基盤づくりを進めることで、市民と観光客の交流の意欲を高めるなど自発的な行動に繋がります。

【施設に関する基本方針】

デジタルでの活用を工夫するとともに現施設の有効活用を図り、適切に保存・活用を行います。

中・長期的には、武雄市公共施設等総合管理計画に基づき、次期個別施設計画の中で課題の解決を図るための整備方針について検討します。



【適切な保存について】

資料を活用し次世代に伝えるためには、資料を適切に保存しなければなりません。そのために、資料の状態を把握し、将来にわたって継続して安定的に管理する体制を構築します。

また、資料を安全に保存するための環境の整備を実施します。さらに、必要に応じて適切に修理を行い、良好な状態の維持に努めます。

(1) 資料の管理

- ・将来にわたって継続して安定的に資料の保存を行うため、日常的な管理を適切に行います。
- ・全ての資料について、目録記載事項の確認、状態の確認、写真撮影など総点検を実施します。
- ・データベースを活用した管理用台帳を作成します。将来的には、地域住民や研究者がネット上で資料の詳細な情報を閲覧できる統合型収蔵資料システムへ移行します。

(2) 保存環境の整備

- ・収蔵スペースが限られている中で、有効に空間を活用し収納の効率化を図ります。
- ・温湿度や照明の管理、有害生物被害対策を適切に行い、資料の良好な環境の維持に努めます。
- ・防災対策や防犯対策を講じることで、災害や犯罪から資料を守ります。

(3) 計画的な修理

- ・状態確認を踏まえ修理計画を策定し、計画的に修理することで文化的価値を保持します。



薩州鹿兒島見取絵図/
鑄製方見取略図
(令和元年度保存修理)

【適切な活用について】

文化財保護法には、「その活用を図り、もって国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする」と謳われており、武雄鍋島家洋学関係資料についても、公開、学術的活用、学習機会の提供、観光振興の面から活用を図ります。

(1) 計画的な公開

- ・年1回以上、武雄鍋島家洋学関係資料を主体とした企画展を実施します。
- ・ホームページをリニューアルするとともに、動画配信などデジタル活用を積極的に行います。

(2) 学術的活用

- ・文書・記録類、和書・訳書類の解読、確認・整理作業を進めます。
- ・蘭学・洋学研究の拠点の一つとなることを目指して、学術研究による研究成果、デジタル資料を蓄積し学習活動へつなげます。

(3) 教育活動

- ・子どもの時から武雄の歴史に親しめるように、副読本「すごいぞ武雄」の授業での活用や子ども学芸員体験講座など『すごいぞ武雄 子ども歴史プログラム』を実施します。
- ・古文書講座、出前講座、歴史ウォーキングなどを実施し、「武雄鍋島家洋学関係資料」を活用した市民の学びの機会を創出します。



(4) 観光面での活用

- ・武雄の蘭学に関連する見学ポイントをまとめたガイドマップの作成やボランティアガイド団体と連携し、蘭学・洋学を通じた地域の方々と観光客との触れ合いの場を醸成します。
- ・西九州には長崎市など蘭学・洋学に関連する地域が多くあることから、これらの地域の博物館等と相互交流、企画展、イベントを開催するなど広域的な連携を図るとともに広く民間企業とも連携を図ります。
- ・資料を外国の方にも知ってもらうために、資料解説の多言語化を進めます。

【主な武雄鍋島家洋学関係資料】



植物標本帳〔標本類〕

中国・琉球・ヨーロッパ産の舶来植物の標本です。名称・舶来年などが記されています。江戸時代の植物学において図譜の作例は数多いですが、植物標本帳は希少です。



長崎方控〔文書・記録類〕

武雄が長崎で注文したもの、手に入れたものが25年間にわたって記録されています。記録された資料の現物が今も多く残っています。「記録」と「現物」の両方が残っていることが、武雄の洋学資料の大きな特徴です。

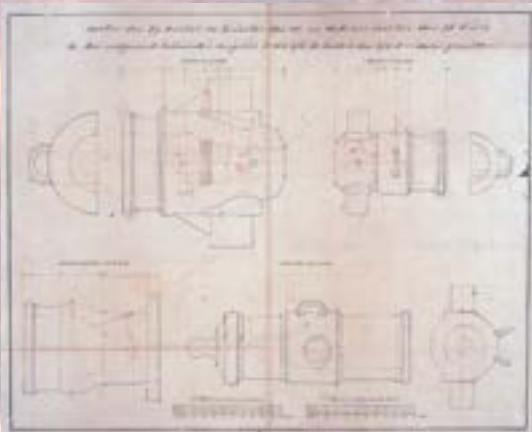
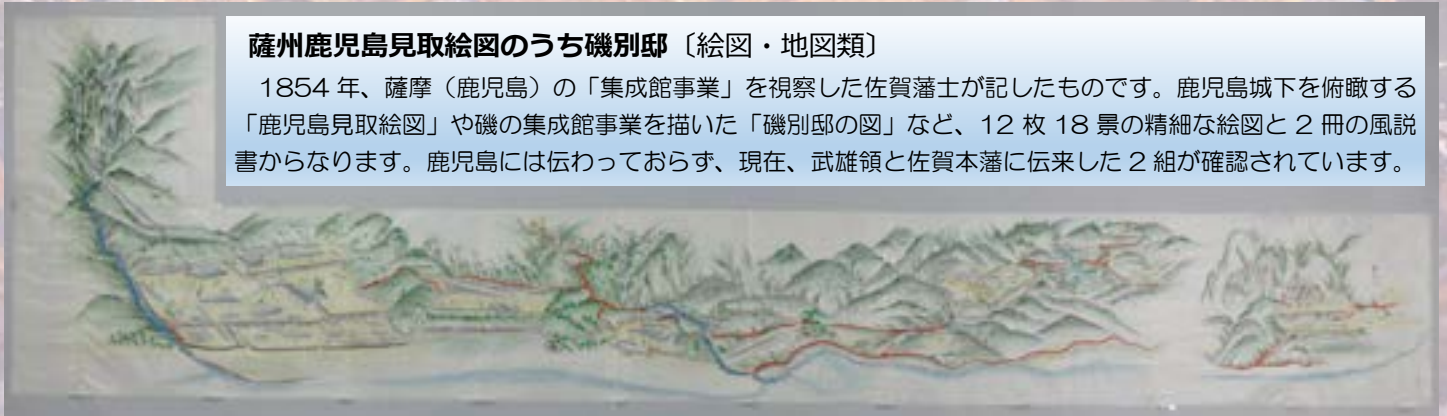


ボンベカノン〔和書・訳書類〕

「ボンベカノン」は当時最新式の大砲です。この本は1824年にフランスで行われた試射実験の報告書を翻訳したもので、佐賀藩主にも献上されました。

薩州鹿児島見取絵図のうち磯別邸〔絵図・地図類〕

1854年、薩摩（鹿児島）の「集成館事業」を視察した佐賀藩士が記したものです。鹿児島城下を俯瞰する「鹿児島見取絵図」や磯の集成館事業を描いた「磯別邸の図」など、12枚18景の精細な絵図と2冊の風説書からなります。鹿児島には伝わっておらず、現在、武雄領と佐賀本藩に伝来した2組が確認されています。



29、20、13 ドイムモルチールと20 ドイムホウワッスル (写)〔図面類〕

武雄で書かれたと考えられるモルチール砲の設計図で、非常に精緻です。武雄は独自に各種大砲の設計図の原本・写本を入手し、大砲製造の研究に役立てていました。

錦旗〔器物類〕

武雄領主が明治天皇から下賜された紅白の菊章旗です。武雄は長年の西洋砲術研究と練兵が評価され、朝廷から直接戊辰戦争への参戦を命じられました。

